

浜辺の歌

2024-9-29

野口幹夫

九月の KOZOOM の席で歌の話題が出たついで、毎朝海岸のラジオ体操に出るとき浜辺の歌を歌うことを紹介しました。ご存じ成田為三の作曲です。作詞は林古溪です。その一番に「あした浜辺を もとおれば 昔のことぞ しのぼるる」とあり、その通り昔のことを歌ってみようと思いました。

海岸に出てすぐ東に向かうもので日の出の太陽を正面に迎えます。

今年の4/20のコズミックフロント「奇跡の旅路太陽大移動」の番組で、太陽は銀河の中でまるで地球での生命誕生の準備をするごとく、安全な今の場所に20億



年前移動してきたのだとの紹介がありました。まず2番の歌詞はその太陽のありがたさと水の惑星我が地球に生命に誕生人間の誕生をもたらしたことを喜びました。

茅ヶ崎海岸は正面に烏帽子岩があります。戦後米軍がこの地にベースキャンプを置き砲撃の演習で先端が破壊されたのですが、それ以前は姥が祈ってい

る姿に似ているとのことで姥が島と呼ばれました、ここは500万年前の古

い地層でできています。で

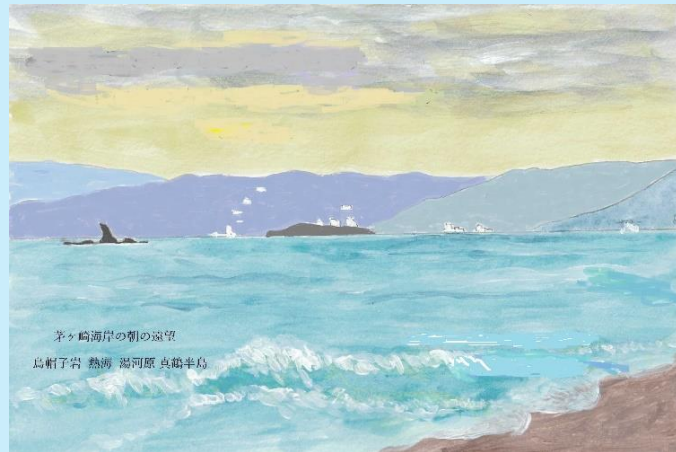
きた頃は何もありません、

その後300万年前の海底

火山群が太平洋をはるばる

旅をして日本列島に衝突し

てできたのが伊豆半島の



山々です。富士の噴火はさらにあとのこと、一番最後は6000年前です。こ

れが3番の歌詞です。

再び東に進みます。正面に江の島が見えます。この海岸を江戸の後期 伊能

忠敬が日本列島の地図を作るために歩きました。隠居後の仕事としては比類

のない仕事でした。せめてそれを偲んだのか四番の歌詞です。

江の島の左端には、白い岩本楼が見えます。江戸時代の歌舞伎白波五人男の

うち弁天小僧菊之助はこの岩本楼の稚児育ちと啖呵を切ります。さらに見え

る逗子の山々は加藤先生の思い出が詰まったところです。これが五番目の歌

詞です。

20億年から近年までの昔を偲びました。

浜辺の歌

毎朝海岸に出て歌う歌 2番以降自作歴史詩

① あした浜辺を もとおれば 昔のことぞ しのぼるる

風の音よ 雲のさまよ よする波も 貝の色も

② 赤い太陽が 今のぼる 銀河の中を 動きつつ

水の惑星 わが地球 いのち育み 我を生む

③ 相模の浦の 姥が島 周りの山々 来るを待つ

富士の高嶺が 火を噴くを 一人静かに見守りつ

④ 江の島向けて 歩みゆけば 昔の人ぞ しのぼるる

伊能忠敬 ここを歩む 日本の島の 地図を作る

⑤ 江の島向けて 歩みゆけば 江戸の物語 今に伝う

三浦岬や 城ヶ崎 逗子の山々 思い深し



浜辺の歌を歌いながらラジオ体操会場に向かう
私を仲間がとってくれた写真